今、何の病気が流行しているか！

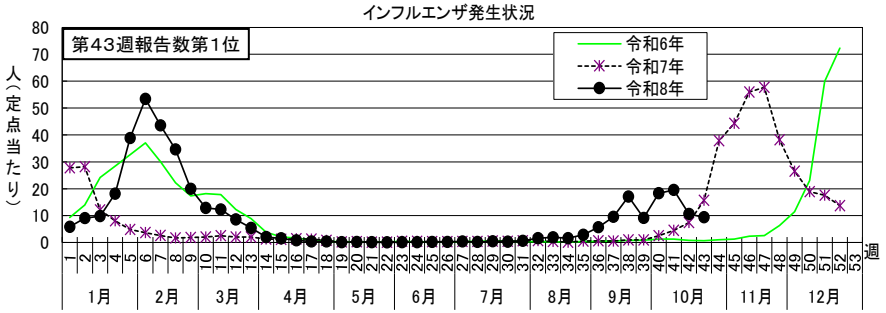
【感染症発生動向調査事業から】

令和８年１０月１９日（月）～令和８年１０月２５日（日）〔令和８年第４３週〕の感染症発生状況

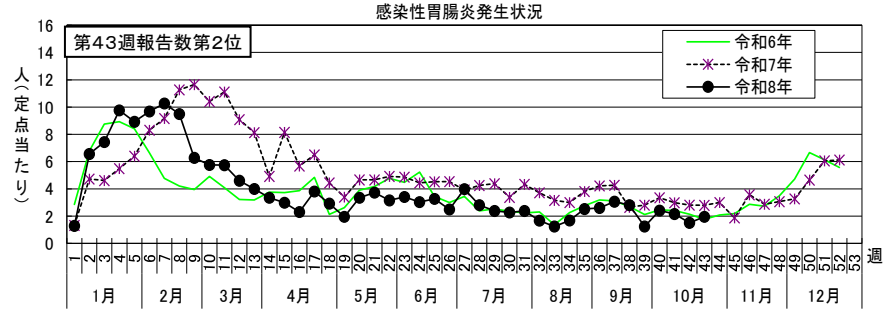
第４３週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、１）インフルエンザ　２）感染性胃腸炎　３）新型コロナウイルス感染症でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は９．４０人と前週（１０．５９人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は１．９５人と前週（１．５１人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は１．４７人と前週（０．８９人）から横ばいでした。



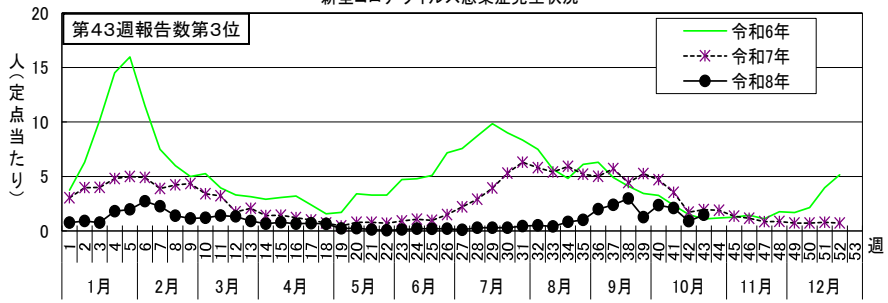
インフルエンザ発生状況



感染性胃腸炎発生状況



新型コロナウイルス感染症発生状況



先天梅毒に御注意を！～梅毒の報告が続いています～

川崎市における梅毒の報告数は令和４年以降、年々増加しています。今年は昨年よりも少ないものの、第４３週（１０月１９日～２５日）までに９７件の報告があり、女性の報告は３０歳代以下が９割以上を占めています。

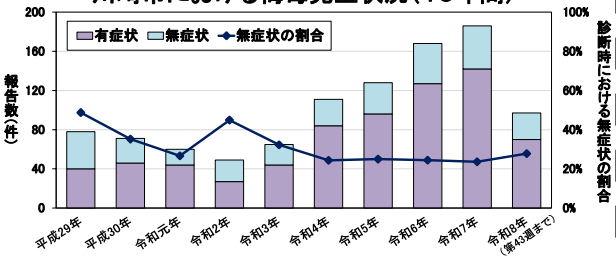
妊婦が梅毒に感染すると、死産や早産に加え、胎児の神経や骨等に異常をきたす先天梅毒を引き起こすことがあります。梅毒の症状は一時的に消失することがありますが、潜伏期間や症状消失期間においても人に感染させる可能性があり、胎児への感染リスクもあります。早期の抗菌薬治療が有効ですので、感染が疑われる場合は症状の有無にかかわらず医療機関を受診しましょう。

梅毒とは？　※先天梅毒を除く。

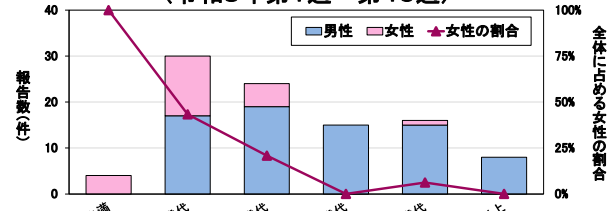


病原体：梅毒トレポネーマ
感染経路：性的接触等
潜伏期間：２～４週間程度
症状：●**第Ⅰ期（感染後数週間～）**：局所にしこりや潰瘍等の皮膚病変、無痛性のリンパ節腫脹等
●**第Ⅱ期（感染後数か月～）**：手掌や足底を含む全身に皮疹、全身臓器への様々な症状等
一時的に症状が自然消失することがある。
●**晩期：（感染後数年～）**：心臓や血管等の病変
治療：抗菌薬治療

川崎市における梅毒発生状況（10年間）



川崎市における梅毒の性別年齢階級別発生状況
（令和8年第1週～第43週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策課・
各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）０４４－２７６－８２５０　令和８年１０月２７日作成